



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教110~120周年
標語

共に生きる
いのちの天幕を
広げよう

1963年9月20日 第3種郵便物認可 (毎月一日発行)

2024年6月1日 (土) 第838号

発行所 福音新聞社 (1部100円)
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3202-5398 info@kccj.jp
発行人/ 梁栄友・編集人/ 鄭守煥

印刷所 青丘文化社

学んで確信したことから離れてはならない

オリニ主日
説教

<テモテへの手紙二3:14~17>



金承熙 牧師 (下関教会)

主の御名を讃美します。わたしは、在日大韓基督教会武庫川教会にて幼児洗礼を授かり、教会学校に通い、豊かな聖書教育を教会学校で受けて育ちました。父(金吉雄 長老)が、教会学校の校長先生であったこともあり、わかりやすく聖書を教えてくださる先生たちのもと、豊かなキリスト教教育を受け信仰が育まれたことを誇りに思っています。自分で言うのは滑稽かもしれませんが、わたしは真面目で素直な生徒で、教会学校の先生たちが教えてくださる聖書の御言葉をスポンジのように吸収しながら育ちました。牧師になってからも、それらの学びがわたしの牧会における「かなめ石」となっていることは間違いありません。

テモテへの手紙二3章14節~17節に、大変重要な御言葉があります。「だがあなたは、自分が学んで確信したことから離れてはなりません。あなたは、それをだれから学んだかを知っており、また自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。聖書はすべて神の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです。」というパウロが弟子のテモテに教えた言葉です。信仰と霊性を築き上げ成長して行くことは、神の御言葉によるものであることがわかります。また、主は「心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。自分を低くして、この子供のようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ(マタイ18:3~4)」と言われました。これは、わたしたち大人が子供を見て学ばなければならないことが大いにあるということです。

ところで、昨年、アズベリー大学にてリバイバル (Revival 信仰復興) が起こりました。わたしも妻とそのリバイバルの集会に参加し、米国中から集まって来た若者たちと一緒に讃美し、踊り、祈りながら、何がそこで起きているのかを直接体験しました。実は、1970年にアズベリー大学でリバイバルが起き、185時間もその火が消えなかったそうですが、去年は2週間以上も休みなく、参加者たちが泊まり込んでノンストップで集会が続けられたそうです。主催者のないこのリバイバル集会は米国中の学生にまで広がり、毎日15,000人もの人々が参加したそうです。特異なこととしては、この集会への参加者たちの多くが米国の歴史上最も非宗教的と言われるZ世代の若者だということでした。一部の関係者は、これはリバイバルではなく、一時的な霊的な信仰覚醒 (Spiritual Awakening) であると評価

していましたが、わたしはそのことよりも若者たちが霊的に飢え渴いていることを強く感じました。なぜなら、わたしたちが生きている時代はあまりにも多くの選択肢と情報が氾濫しており、主が言われたように「戦争、偽預言者、飢饉、地震、迫害、不法、愛の冷え (マタイ24章)」などの「終末の徴」が方々で起きているからです。つまり、彼らは混乱したこの世界において、何を信じ、いったいどこに根を張って生きていけばよいのかははっきりとわからないがゆえに、心の不安が極まりないのではないかと、わたしは感じとることができました。

人は真理を求めているのです。主が「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの轡を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる (マタイ11:28~29)」と言われた御言葉を思い起こし、少し後になって、やはり神の霊によってその「集まり」に、若者たちは導かれたのだと改めて思いました。ところで「アイデンティティ (identity)」という言葉には、様々な定義と解釈がありますが、人には生きる意味や価値、人生における役割確認や確信が必要なのです。それがゆえ、キリストの教会は「すべき使命」があります。それは「道であり真理であり命である (ヨハネ14:6)」イエス・キリストの十字架と復活をしっかりと伝えることです。神の御言葉をしっかりと伝え、救いに導くことです。

コヘレトの言葉12章1節に「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。苦しみの日々が来ないうちに。『年を重ねることには喜びはない』と言う年齢にならないうちに」とあります。一見これは、子供や若者に迫ってくる言葉のようですが、実は、キリスト者である成熟した大人、つまり両親や牧師また教会の責任として迫ってくる言葉でもあると思います。ところで、「あなたの父母を敬え (出20:12a)」という戒めがありますが、ルターは、父と母を「神に次ぐ最高の存在として仰ぐこと」を主張しました。

一方、B.S. チャイルドという旧約学者は「両親は子どもに対して神の権威を代表するものであり、従って家庭における宗教教育は、両親に課せられている重大な責任である。それゆえ、両親への服従は神への服従に結びつく。両親は子どもを生み、ただ育てるだけで両親としての責務を果たしているわけではない。神の戒めを正しく教え、信仰によって養育する時、地上における神の代行者としての親の責任を果たしたと言えるのである」と言及しています。「学んで確信したことから離れてはならない (テモ二3:14)」という言葉は、子供と大人に命ぜられていることを共に覚えたいと思います。

韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。
●B6版変型・1483ページ
●価格: 2,500円(消費税・送料込み)
※お求めは総会事務所へ

韓日対照聖書販売



各ページの左に韓国語(改革改正訳)、右に日本語(新共同訳)が掲載されています。
●A5版変型・1760ページ、革製
●価格: 4,000円(消費税・送料込)
※お求めは総会事務所へ

関東地方会

第75回定期総会を開催

東京緑州教会の名称をシオン教会に変更

関東地方会第75回定期総会が2024年5月29日(月)、東京教会にて総代72名中、58名が参加して開催された。

開会礼拝は地方会副会長の柳町功長老の司会により進められ、地方会長の金容昭牧師により「力をくださる神様」(詩編29:11)という題目で説教がなされた。

議事が進み、来賓の紹介と挨拶が行われ、日本基督教団からは奥羽教区、東北教区、関東教区、東京教区、西東京教区、神奈川教区、日本キリスト教会からは東京中会の代表が挨拶した。

決議された主な内容は、長老増員請願(横浜2名、品川2名、東京7名、東京希望キリスト2名)、空席の社会部長に金迅野牧師、無牧教会の臨時堂会長選任は、東京教会の具滋佑牧師、川崎教会の金迅野牧師が承認、東京緑州教会の名称をシオン教会に変更、札幌教会請願の後藤奈々姉妹の総会神学生認定の件は考試部へ、予算案15,433,382円が条件付きで承認された。(報告:書記 金明均)



関西地方会

第75回定期総会を開催

高大韓・韓宣榮牧師の按手式も行う

関西地方会第75回定期総会が2024年5月6日、大阪教会にて、総代68名中、61名が参加して開催された。

開会礼拝は森克之副地方会長の司会により進められ、梁榮友牧師により「ゲハジの失敗」(列王記下5:20~27)という題目で説教がなされた。献金は能登半島地震の被害復旧支援のために捧げられた。

鄭然元牧師の司式による聖餐式の後、高大韓牧師(京都)、韓宣榮牧師(大阪)の按手式と鄭東錫伝道師(大阪)、具本曙伝道師(京都)の認許式が執り行われた。

決議された主な内容は、各教会による長老増員請願(京都2名、京都南部2名、大阪北部3名、大阪2名、布施1名)が承認され、また空席にあった書記には宋南鉉牧師、副書記は裴貞愛牧師が選出された。予算案9,444,560円が承認された。(報告:宋南鉉)



西部地方会

第40回定期総会を開催

武庫川教会鄭詩温牧師按手式も行う

2024年4月29日(月)、岡山教会にて西部地方会第40回定期総会が開催された。

開会礼拝は、地方会長の韓承哲牧師が「目標に向かって共に走る」(ヘブライ人へ12:14~17)という題の説教後、崔亨喆牧師の司式により聖餐式が執り行われた。

全総代33名中25名の出席により開会宣言がなされ、武庫川教会の鄭詩温牧師按手式が執り行われた。主な決議事項は各種報告の後、武庫川教会の長老1名増員請願を承認、無牧教会の臨時堂会長の承認、2024年度予算案(8,934,832円)などが決議された。(報告:尹鐘憲)



中部地方会

第61回定期総会を開催

岐阜教会の宣教費補助を承認

2024年5月3日、中部地方会第61回定期総会が大垣教会にて開催された。

開会礼拝は、地方会長崔和植牧師が「キリスト者のパワー」(使徒言行録10:17~23)と題してメッセージを伝えた後、祭銀淑牧師(大垣)の司式により聖餐式が執り行われた。議長が来賓を紹介した後、来賓からの祝辞と総会長の挨拶文代読(副総会長 張慶泰牧師)、来賓(日本基督教団 中部教区 議長加藤幹夫牧師)の挨拶があった。

会議には総代員25名中21名が出席し、各種報告が行われた後、名古屋教会の長老2名増員請願、岐阜教会の宣教費補助請願、朴太元牧師と金智一牧師の無任所牧師延長の請願が承認され、2024年度の予算案(15,812,958円)などが承認された。



西南地方会

第74回定期総会を開催

曹恩注牧師の按手式も行う

4月29日(月)、宇部教会に於いて西南地方会第74回定期総会が、総代23名中18名、準総代9名の出席する中で開催された。

開会礼拝では辛治善地方会長の説教『福音伝道者の道』(使徒言行録5:40~42)があり、引き続き聖餐式を執り行った。

議事に入り、「曹恩注伝道師の牧師按手の件」を承認し、曹恩注牧師按手式、宇部教会委任式を金聖孝牧師の司会、辛治善牧師の司式で執り行われた。

主な決議事項は、「西南地方会規則改正案」「西南地方会規則

修正案」「伝道部長選出の件」は、新しく林明基牧師(福岡教会)を選任、「折尾教会長老選出許諾請願」「小倉教会長老選出許諾請願」「福岡教会長老選出許諾請願」をそれぞれ承認した。最後に予算案11,871,879円を承認した。



URM国際シンポジウム開催 「不平等と差別を超えて」を主題に

5月13～15日、韓国・大田のビンドル教会で「第20回＜移住者-URM＞国際シンポジウム」が開催された。主題「不平等と差別を超えて——東アジアの和解と平和を求める韓・日・在日教会の宣教課題」のもと、韓国基督教教会協議会（NCKC）正義と平和委員会／日本キリスト教協議会（NCCJ）都市農村宣教委員会（URM）／外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会（外キ協）の主催で、韓国から20人、日本から17人（うちKCCJ 5人）が参加した。

主題講演ではイ・キホ教授（韓神大学）が「境界を必要とする国家と、境界を行き来する市民——東アジアの平和に向けた日韓市民社会の地位と役割」と題して、東北アジアの転換期を迎えた東北アジアについて明瞭かつ簡潔に話され、「韓国で進められてきた民主化運動の歴史と、日本が固守してきた平和憲法9条は、近隣国家を市民国家に転換できる根本的な動力である」と結ばれた。

発題1としてナム・ジェヨン牧師（非正規職対策韓国教会連帯常任代表）「韓国社会の非正規職問題について」、発題2として岡本拓也 牧師（日本基督教団南住吉教会）「日本社会の差別と嫌悪を克服するためのキリスト教の取り組み」のあと、韓国



オプティカルハイテク（親会社が日本企業）の解雇労働者の証言があった。そして発題3としてコ・ギボク牧師（龍仁みんなのための移住者文化センター所長）「韓国社会移住者の現実、季節労働者の人権、国際連帯の成果と課題」、発題4として佐藤信行氏（外キ協事務局）「在日韓国・朝鮮人と移住者・難民の現状、そして教会の取り組み」のあと、全体討論と共同声明について協議した。

※2024 日・韓・在日教会＜URM-移住者＞国際シンポジウム共同宣言文は次号に掲載する。（報告：RAIK顧問 佐藤信行）

梁総会長、海外協力教会訪問 台湾基督長老教会を訪問し大地震義援金伝達

去る2024年4月16日～18日、台湾基督長老教会（PTC）の第69回定期総会総会が台中市にある台湾基督長老教会が運営している彰化基督教醫院の大ホールで行われ、梁栄友総会長が参席してあいさつをし、去る4月3日に台湾東部の花蓮県で起きた大地震により被害を受けた台湾長老教会に属する教会の復興のために緊急地震義援金300,000円を届けた。

また梁栄友総会長は去る5月1日～3日、韓国の混池岩、所望修養館で開催されたアメリカ長老教会（PCUSA）、韓人教会全国総会（NCKPC）総会の招待を受けて出席してあいさつをし、交わりを重ねた。

NCKPC総会は、2011年4月に日本（大阪）で総会を行う予定だったが、東日本大震災で実行できなかったこともあり、梁総会長はあいさつの際に、「実行できなかった日本でのNCKPC総会開催を日本で開催されることを待ち望みます」と述べた。



<新任牧師の抱負>

○曹恩注牧師（1978年 韓国出生）

・視務教会：宇部教会 担任牧師
・最終学歴：東京神学大学院
・結婚：既婚
・将来の抱負：人と教会が好きです。人々はそれぞれ違うけれども各自の中にはまだ見ぬ価値があります。その価値を発散できる場所が神の御言葉がある教会だと思います。私も教会によって礼拝、仕えることによって「わたし」という存在感が確かになったとおもいます。神さまから遣わされた宇部教会にて信徒たちと共に礼拝、仕え、お互いの価値を尊重し、その中に隠された神の摂理を明らかにする生き方で神様に賞賛される信仰の道を歩みたいと思います。



○高大韓牧師（1992年、韓国出生）

・視務教会：京都教会 副牧師
・最終卒業学校：韓国長老会神学大学院 神学大学院
・結婚/未婚：6月15日結婚予定
・将来の抱負：この度、関西地方会定期総会を通して牧師接手を受けることができました。神さまのすべての恵みに感謝します。これからの歩みも本当に神さまのために前進するものになりたいと思います。聖書の教えと共に、またどんな苦しみがあるろうとも神さまと共に歩み、神さまに喜ばれる牧師になりたいと思います。すべての栄光を神さまに感謝します。



○鄭詩温牧師（5月11日、日本出生）

・視務教会：武庫川教会 副牧師
・最終卒業学校：関西学院大学大学院神学研究科
・家族：劉加貝（夫）、鄭然元・楊愛卿（両親）
・将来の抱負：この度、牧師接手を西部地方会にて授かり、武庫川教会の副牧師として遣わさせていただきましたことを心から神さまに感謝いたします。宣教100周年宣教理念には私たちに与えられた宣教の使命の一つとして「すべての『生』の領域における、あらゆる抑圧からの解放を含むものであり、神から与えられた人間の可能性と『いのち』の輝きが実現されること」とあります。神さまの宣教に参与する牧会者として歩み生きていきたいと願っています。



○韓宣榮牧師（1997年、日本出生）

・視務教会：大阪教会 副牧師
・最終卒業学校：関西学院大学大学院神学研究科
・家族：金聖恵（母）
・将来の抱負：ハレルヤ！この度、在日大韓基督教会の関西地方会を通して牧師接手を受けたことを、主なる神さまに感謝致します。これから主がご計画されている大いなる救いの御業のために、主御自身がわたしを呼び、用いようとされておられると信じ、ひとりの牧師として、ただ神に仕え人々に仕える者でありたいと願います。私はまだまだ未熟ですが、神さまが用いようとされる所で、自分の使命と役割を精一杯、果たしたいと願っております。



西南地方会

曹恩注牧師委任式を挙行 宇部教会に担任牧師として赴任



去る2024年4月29日(月)宇部教会においては曹恩注牧師の按手式と委任式が西南地方会第74回定期総会開催中執り行われた。臨時堂会長金聖孝牧師の司会のもと礼拝が始まり、説教は辛治善牧師(西南地方会長)が「使命者の道」(ヨシヤ記1:1~8)という題名でされた。

先ず牧師按手式は、地方会書記趙顯奎牧師の曹恩注伝道師を紹介した後、西南地方会長辛治善牧師の司式によって誓約、按手祈祷、宣言で進められた。

引き続き西南地方会による宇部教会の曹恩注牧師の委任式が西南地方会長辛治善牧師の司式で執り行われ、誓約と祈祷の順で曹恩注牧師が宇部教会の担任牧師になったことを宣言された。

この度、宇部教会の担任牧師として委任された曹恩注牧師は、1978年韓国の済州島で生まれ、済州観光大学音楽科を卒業、東京神学大学と大学院を卒業してから2022年から宇部教会に伝道師として赴任し、第74回定期総会において牧師按手を受けた。

家族は夫がいて、大阪教会の鄭然元牧師は義父にあたる。

能登半島地震被災支援献金報告

社会委員長 申容燮

去る1月1日午後4時ごろ、石川県の能登半島地域で最大震度7の強震が発生し、245人の方が死亡、4カ月たった現在でも4600人ほどの方々が避難生活を余儀なくされ、約3780戸に断水が続いています。

総会では1月5日から各教会に、能登半島地震被災支援献金をお願いし、3月末までに200万円を超える献金がささげられました。社会委員会ではこの大切な献金を被災された教会、信者だけでなく、家族を失い、暮らしの基盤を失い、生きる希望を失ってしまった方々のためにも使える方法を模索しました。その結果、協力教団の中で最も大きい被害を受けた「日本基督教団中部教区」へ50万円。「カトリックのカリタス“のど”サポートセンター」、「北陸学院キリスト教センター」に30万円ずつ支援金を送りました。

「日本基督教団中部教区」では輪島教会が半壊して危険判定

を受け、他の教会で合同礼拝をささげておられるそうです。他の教会の牧師先生方も、ご自身が被災されているにもかかわらず、信者たちを助けることを優先し、様々な活動に奔走され困難に陥っている状況だと伺いました。能登半島地域ではボランティア活動が容易ではない状況ですが、教会を活用してボランティアを派遣し、復旧に協力中です。「北陸学院キリスト教センター」は、被災地域に地震発生初期から生活必需品を運んだり、学生たちが被災者と交流したりと活動を進めています。このような尊い働きを通して、一日も早く復旧し、傷を負った方々が慰められ回復されることを祈っております。

また、4月3日に地震被害にあった台湾教会のためにも、ちょうど台湾長老教会総会に出席される総会会長を通して、30万円の慰労金をおささげしました。

物価高などの影響により、皆さんの家庭も余裕がない状況かと存じますが、そんな中であっても、被災された方々のために折り、献金を献げて下さったことに、心より感謝し、また大きな地震によって恐ろしい経験をした方々に神様の慰労と愛が伝えられることを祈ります。

《緊急声明》

私たちは「永住資格取り消し法案」に反対します

日本の国会では4月から「永住資格取り消し法案」の審議が始まりました。

我們在日大韓基督教会は、特別永住者の在日韓国人だけではなく、韓国から起業や就労、留学、結婚などで渡日した韓国人や、日本人をはじめさまざまな国籍の信徒・教役者で構成されています。今回の法案では「特別永住者」は対象となっていませんが、日本に長年暮らして「永住者」となっている韓国人信徒・教役者が多くいるため、法案について私たちの意思を表明することにしました。

「永住資格取り消し法案」は、日本に在住するうえで最も安定した在留資格を持って生活基盤を築いている外国人住民の「永住者」に対して、重大な不利益をもたらす差別的な法案である、と私たちは考えます。

「永住者」は在留期間の制限なく日本に滞在することができますが、永住許可を得るには原則として10年以上在留していることに加えて、納税の義務を果たしているなどの厳しい条件を満たす必要があります。そのような厳格な審査を経て永住許可を得た外国人住民は、日本で働き、子どもを育て、さまざまな形で日本社会に貢献してきました。「永住者」の数は年々増えて2023年末現在、891,569人となり、そのうち韓国籍の永住者は75,675人です。

ところが、今回の法案は、①在留カードの常時携帯、7年ごとの在留カード更新、14日以内の住居地変更届け出などの入管法に違反した場合、②税金や社会保険料を支払わない場合、③住居侵入罪などにより拘禁刑1年以下(執行猶予を含む)が科せられた場合に、永住資格を取り消すとしています。つまり、永住資格取り消しによって、長年にわたって築いてきた日本での安定的な生活基盤が奪われるということです。

日本がすでに加入している国際人権自由権・社会権規約や人種差別撤廃条約では、外国人住民に、国政参政権を除く基本的な権利を保障することを定めています。とりわけ永住者に対しては、日本人と同等に扱うよう、国連の自由権規約委員会や人種差別撤廃委員会が日本政府に求めています。税金や社会保険料の滞納や、退去強制事由に該当しない軽微な法令違反に対しては、日本人に対するのと同様に、法律に従って督促、差押といった制裁措置をとれば良いのです。

しかし、外国人であるがゆえに、在留資格「永住者」を取り消すというのは、外国人に対するあからさまな差別です。人種差別撤廃条約の第2条(締約国の差別撤廃義務)と第5条(非差別・法の前の平等)、自由権規約の第2条(締約国の差別撤廃義務)と第26条(非差別・法の前の平等)に違反します。

韓国では、韓国民も外国人も人権侵害を申し立てることができる国内人権機関(国家人権委員会)があり、また永住外国人には地方参政権が認められています。しかし日本では、国内人権機関もなく、外国人の地方参政権も実現していません。日本人も外国人も「共に生き、共に生かし合う」日本社会を作りたいと願う私たちはこの法案に反対し、日本が先進国にふさわしい人権制度を整えるよう、要望します。

2024年5月2日

在日大韓基督教会
総会長 梁 榮 友
社会委員長 申 容 燮